

第37回東京国際映画祭公式出品

『セノーテ』『鉦 ARAGANE』小田香最新作

Underground

アンダーグラウンド

世界が開いていく

監督 小田香

出演 吉開菜央 松永光雄 松尾英雅

テクニカルディレクション・録音・グレーディング 長崎隼人 撮影 高野貴子 照明 平谷里紗、白鳥友輔
監督補佐・撮影補佐 鳥井雄人 撮影補佐 三浦博之 投影装置制作 岩田拓朗、平戸理子、山田大揮
スチル 権藤義人 プロダクション・コーディネーター 小山冨子、小田絵理子 監音・サウンドデザイン 山崎巖
音楽 細井美裕 タイトルデザイン・グラフィックデザイン 畑ユリエ
プロデューサー 筒井龍平、杉原永純

製作トリクスタ

共同製作 シネ・ヌーヴォ、ユーロスペース、ナゴヤキネマ・ノイ、札幌文化芸術交流センター SCARTS、豊中市立文化芸術センター
配給 ユーロスペース＋スリーピン

2024年/日本/83分/カラー/5.1ch

©2024 trixta



誰が乗っているとも知れぬ暗闇の軌道を移動する
 地下鉄のロングショットが、
 どうしてこれほど見るものの神経を騒がせるのか。
 とは申せ、その題名にもかかわらず、この小田香の期待の新作は、
 地上人の、しかもたった一人の女性をめぐる映画でもある。
 そのことの深い驚きから回復することなど、誰にもできはしまい。
 蓮實重彦（映画評論家）

闇と光、生と死、過去と現在の境界をめぐる小田香の詩的探求。
 影のように静かに導く、謎めいた女性を演じる
 吉開菜央の驚くべき存在感。

ヴァラエティ誌

五感を研ぎ澄ませ

小田香が三たび、カメラを向けるのは
 日本の“地下世界”

漆黒の暗闇に横たわる歴史を凝視する——

地下の暗闇から、蠢く怪物のように「シャドウ(影)」が姿を現す。シャドウ(影)はある女の姿を借りて、時代も場所も超えて旅を始める。地下鉄が走る音を開き、戦争で多くの人々が命を失ったほら穴の中で死者達の声に耳を澄ませる。そんな道行きの中、シャドウ(影)は、かつてそこで起きたことをトレースしていくようになり、湖の底に沈んだ街に向かう——。

監督:小田香 出演:吉開菜央 松永光雄 松尾英雅

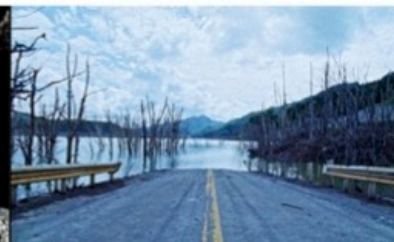
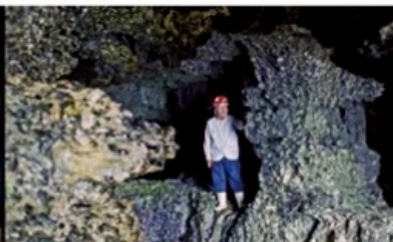
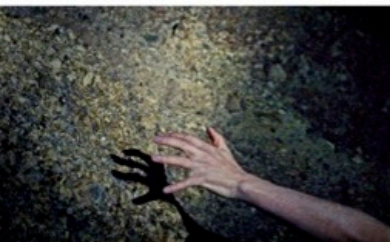
配給:ユーロスペース+スリーピン 2024年/日本/83分/カラー/5.1ch
 ©2024 trixta

<https://underground-film.com/> X @AraganeFilm

異空間にダイヴせよ

鬼才タル・ベーラの愛弟子、小田香が描き出す、ドキュメンタリーを遥かに超えた異形の空間
 映画『Shari』や米津玄師「Lemon」MV(出演・振付)の吉開菜央が体現する、時空を超える存在

「ニーチェの馬」で知られる映画作家タル・ベーラが設立した映画学校で学んだ後、『鉱 ARAGANE』では、ボスニア・ヘルツェゴビナの炭鉱を、『セノーテ』では、メキシコ、ユカタン半島北部の洞窟内の泉と、異形の地下世界を題材に制作を続けてきた小田香が、三たび、遂に日本の地下世界にカメラを向ける。3年かけて日本各地をリサーチし、その土地に宿る歴史と記憶を辿り、土地の人々の声に耳を傾け、これまでとは全く異なる撮影体制で、地下の暗闇を16mmフィルムに焼き付けていく。その道行きには、映画作家・ダンサーの吉開菜央が、「シャドウ(影)」という存在を演じ、まるでその姿が歴史そのものであるかのように随伴する。鼓膜がうち震えるほどの音響設計と、時折、漆黒の暗闇に揺れる眩い光がドキュメンタリーという枠を超え、我々の既存概念をぶち破る力強さで疾走していく。



2025年3月1日(土) —
 ロードショー

渋谷・文化村前交差点左折
 ユーロスペース
 EUROSPACE
 tel.03-3461-0211 www.eurospace.co.jp

劇場窓口限定!!
 特別鑑賞券¥1,500絶賛発売中!
 先着100名に
 小田香監督の短編「TUNE」(2018年/6分)
 & 特報を収録したDVDをプレゼント!

小田香 特集
 同時開催
 決定!